

FDA 9号機 ERJ 175 について



EMBRAER 175

SPECIFICATION

- 座 席 数 : 84席
- 最大離陸重量 : 37.5トン
- 航 続 距 離 : 約2,950km
- 巡 航 速 度 : Mach 0.78 = 870km/h
- 全 長 : 31.68m
- 全 高 : 9.86m
- 全 幅 : 28.65m

機体デザインとカラーリング

尾翼に入ったシンボルマークは、朝日が当たり輝く富士山がモチーフ。1号機レッド、2号機ライトブルー、3号機はピンク、4号機グリーン、5号機オレンジ、6号機パープル、7号機イエロー、8号機ティンダーグリーンと、1機ごとに色が異なるマルチカラーコンセプトを採用し、「夢・たのしさ」を表現しています。



【路線投入予定】

名古屋発着 ■3月25日(水) 名古屋小牧=青森(361/362便) 名古屋小牧=熊本(325/326便) 名古屋小牧=花巻(357/358便)

静岡発着 ■4月3日(金) 静岡=福岡(148便) ■4月4日(土) 静岡=福岡(143/146便)

松本発着 ■4月3日(金) 松本=福岡(202/207便) 松本=札幌(211/212便)

General Electric Aircraft Engine社(米国 GE)
製ターボファンエンジン GE CF34-8Eを搭載。

FDA が運用するエンブラエルはブラジルに本拠地を置く航空機メーカーで、世界 4 位のシェアを誇っています。E170/175をはじめとするE-jetシリーズ機は、複合素材を多用するなど最新技術を取り入れた設計で、リージョナル路線と呼ばれる地方と地方を結ぶ路線に適したサイズと、優れた性能を持つ最新鋭機です。小型軽量な

ボディに高出力エンジンを搭載することで燃費性能が高く、低コストでの運用が可能となつて、国内はもとより海外エアラインでも多数納入されるなど、好評を博しています。また、同サイズの機体には比べ客室空間が広い事が特徴で、シートサイズ・間隔も広く、機内ではゆったりと快適にお過ごしいただけます。

小型機ながら広い客室空間

胴体は二つの円を重ねた「ダブルバブル構造」と呼ばれる形状により、同クラスの機体にくらべ圧倒的に広い客室空間を実現。

通路の高さは2mあり、頭上の手荷物格納もクラス最大級の容量を誇る。

シート間隔は79センチ、ゆったりとしたサイズと、ソフトレザーによる柔らかな座り心地が特徴。



ウイングチップ (燃費改善パッケージ)

気流の流れを整え、翼端部に発生する空気うずの発生をおさえることで、燃費向上に貢献。9号機から大型化され、角度も変更となった。



ADS-B OUT

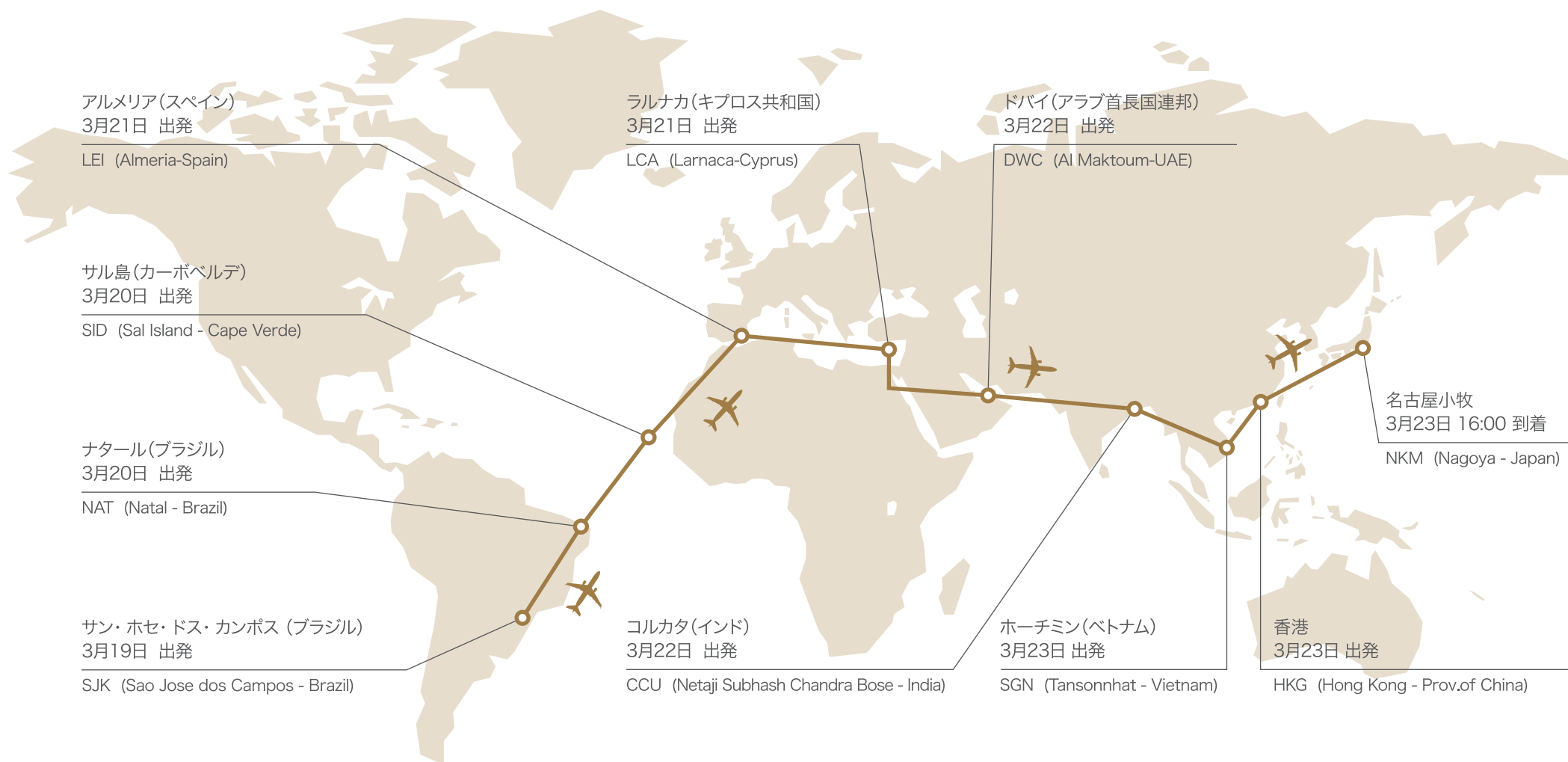
GPS情報を元に、位置情報や高度・速度といったデータを送信するシステムを搭載。インターネット上のリアルタイム表示にも対応予定。



ライトニングセンサー

機体上部に取り付けられたアンテナで、大気中にある電磁気および静電気等を検知して、天気レーダー上に雷の状況を表示する装置。

FDA 9号機 フェリーフライトルート



ブラジルでの機体領収まで

発注した機体の組み立てに際して、FDAの整備士がエンブラエル社に向かい、製造工程や仕様・航空法の規程を満たしているかなど、品質を厳しくチェックいたしました。機体完成後は、規定に沿ったテストフライトで多くのデータを集め、その結果を国土交通省に申請。書類などに問題無ければ、航空機登録証明書が発行され、9号機の登録記号のナンバー JA09FJが与えられます。最終領収検査で細部にわたる機能のチェックや飛行検査を行い、耐空証明書と運用限界等指定書を国土交通省から取得。晴れてFDAの機体として飛行できる事になり、日本へ向けてのフェリーフライトに飛び立ちました。

フェリーフライトとは

フェリーフライトとは、回送や機体の空輸輸送飛行の事。ブラジルから日本まで約18,000kmあり、航続距離約3,100kmのエンブラエル機の場合、北米アラスカを経由する北回りルートと、大西洋を渡りアジアを経由する南回りルートの2種類があります。FDA 9号機のフェリーでは、これまでと同じく南回りのルートで日本に運ばれました。今回のフェリーフライトの操縦はエンブラエル社のパイロット2名が担い、クルーとして領収検査を行った整備士などが搭乗してきました。

※フェリークルー：パイロット 2名／領収検査員 4名／フェリーコーディネーター(飛脚) 1名